

## 女性研究者のための研究力向上セミナーの開催

2015年3月3日、キャリア支援・女性研究者支援部門の活動の一環として、女性研究者のための外部資金獲得セミナーを開催しました。まずは九州大学・研究戦略企画室/応用力学研究所の上瀧恵里子准教授(工学博士)をお招きし、「研究力向上を目指して—研究費の獲得と研究補助員制度の活用—」というテーマでお話頂きました。また学内からは、これまで多数の科研に採択されている工学系研究科田端正明先生(名誉教授・客員研究員)をお招きし、「研究費獲得のコツ—審査員の視点から—」というテーマで詳細なデータを基に佐賀大学における状況の分析から、申請書の書き方のコツなど細かい点についても教えて頂きました。また学内では、男女ともに子育て中の研究者をサポートするための資金として「研究補助員制度」を実施中ですが、その利用者としての立場、研究と子育ての両立について、低平地沿岸海域研究センターの長濱祐美 講師(研究機関研究員)に、ご自身の状況について語って頂きました。講師の方々のお話を踏まえた上で、メンター制度やその他学部を越えた研究者のネットワークの可能性など様々な議論がなされました。

## 子育てと仕事の両立に関するセミナーを本庄、鍋島で開催

2014年12月25日、ワーク・ライフ・バランス部門と本庄地区安全衛生委員会とのコラボで、講演会を開催しました。まず第1部は、「イキイキと仕事を続けるために～健康のためのコツ～」というタイトルで、講師は保健管理センターの保健師、ならびに産業カウンセラーの方によるご講演でした。アルコールパッチテストや、サイコロを使ったグループワークなどで盛り上がりました。そして第2部「イキイキと仕事を続けるために～小1、小4の壁を乗り越えるには？ 子育てとの両立について～」では、講師にNPO法人放課後児童クラブ連絡会理事長の石橋裕子氏をお招きし、佐賀県における学童に関するQ&Aを行ったり、12月に訪問されたデンマークの学童保育の視察報告をして頂きました。また鍋島キャンパスにおいても学童に関するセミナーを実施しました。



## 学内の男女共同参画の様々な取り組み

全学の男女共同参画推進委員会を中心に、各部署が様々な取組や活動をしています。

2014年11月21日にキャリア支援・女性研究者支援部門×工学系研究科のコラボで、第3回目となる「いま、理系女子(リケジョ)がカッコいい！—リケジョの生き方」を開催しました。今回は「研究者編 第2弾」。講師は東京工業大学大学院情報理工学研究科・特任助教の井元智子先生でした。子育てと研究の両立のコツ、あきらめずに研究を続けていくことのお話を伺いました。また講演後のスウィーツカフェでは、恋愛話なども出て、女子学生、大学院生とも大いに盛り上がりました！

第3回 工学系研究科 男女共同参画 三三講演会

地方自治体の女子学生を支援、国際交流員として海外に派遣される、経営・生産、工学等の知識・技術を習得して、幅広い製造工業大学にて教育、研究に携わっていらっしゃる井元先生。製造業の最新技術を知りたいというリケジョ、本学での研究生活に悩んでいる、自身の経験に基づいてお話を伺いたい女子学生、文系の方、教職員の方もぜひ参加下さい！

いま、理系女子がカッコいい!!  
—リケジョの生き方：研究者編 第2弾—

11月21日(金) 17:15~18:00 理工学部1号館 地域連携デザイン工房

◀ 話 題 提 供 者 : 東京工業大学大学院情報理工学研究科・特任助教 井元智子氏  
主 催 : 工学系研究科男女共同参画推進委員会 共 催 : 佐賀大学男女共同参画推進室

※講演料は無料です。女子学生と教職員の参加費は「リケジョ・スウィーツ」を購読します。【印刷料を平定】。理系女子学生のはじめでも参加可能です。ワークシートも配布しています。【参加費お申し込み】詳しくは、男女共同参画推進室(本庄本館1F) 0952-28-8393、メール gender@mail.admin.saga-u.ac.jp

文化教育学部の男女共同参画推進委員会では、女子学生の意見交換会(2014年11月12日)、ならびに女性教職員の意見交換会(2014年11月21日)が開催されました。日頃のちょっとしたことも気軽に話ができるので、いろんな話題が出ました。すぐに解決できない課題もありますが、少しずつでも学内が女性にとっても、より居心地のよい場所になるといいですね。

## 部門の活動(キャリア支援・女性研究者支援部門)

### ミニ講演会を開催しました

身近なロールモデルとして学内の女性研究者の方々にご登壇頂いているミニ講演会。これまでは理系の女性研究者の方による講演が多かったのですが、今回は文系の先生方2名にご研究のお話をして頂きました。

●2015年1月29日:経済学部准教授の井上垂紀先生による「夫婦別氏制と憲法」について講演頂きました。国によって状況は異なりますが、日本の制度は世界の中でも少数派であり、最高裁での判決ももうすぐ、ということでもタイムリーな話題でした。

今回は学生の参加も多く、「結婚」についてもあまり意識をしていない学生にとって、「夫婦別姓」の課題はとても新鮮だったようです。

●2015年2月16日:文化教育学部准教授の宇都宮明子先生に「ドイツ歴史教育との出会い」というテーマでお話頂きました。文系は女性の研究者が多いというイメージがあるかと思いますが、宇都宮先生の実業はほとんど女性がいなかった環境だったそうです。最初は高校に勤務され、様々な職場を経て研究者になったというお話は、学生の方だけではなく学内の教職員の方にとっても興味深いお話でした。



### 研究補助員制度の利用者の声

佐賀大学では、出産・育児・介護・看病中の男女の研究者に対して研究補助員制度の実施を継続中です。この制度は子育てや介護で大変な研究者の研究活動との両立を支援するための制度です。利用者ならびにこの制度で雇用された方々の声をご紹介します

#### ●研究者の声

- ・長男の小学校入学を控え、思うように仕事はかどらない時期もありましたが、この制度のおかげで、提出予定の論文の締め切りを一つも断念することなくやり遂げることができました。
- ・2歳と4歳の子供がおり、病気などもあるため多くの時間を子供に費やしており、自分の研究時間の確保が難しい状態です。今回のこの制度で、研究補助員の方にデータ測定の補助や集計をお願いできたので、時間確保が可能になり、研究が進みました。
- ・妊娠中の体調がすぐれない時期も補助員の方のおかげで実験を滞りなく行うことができました。
- ・介護のために研究時間が減っており、また自宅での作業時間も多く睡眠時間も削っていたが、この制度のおかげで、文献の検索、分類、データ整理をしてもらったおかげで時間を有効に使うことができました。

#### ●研究補助員の声

- ・試薬や培地の調整など実験の補助は、経験したことがありましたが、基本的なものでありながら重要な過程で、時間がかかるものだと感じました。徐々にコツをつかみ、自分にとっても大変よい経験になりました。
- ・これまで自分は学生としての目線しかなかったけれども、先生の先行研究の調査のサポートをしたことで、大学が調査・研究の場であり、そのおかげで私たち学生が最近の情報などを得ることができているのだと実感しました。

## 学外での活動

●2014年11月26日、JST女性研究者活動支援事業合同シンポジウムに参加しました。分科会をはじめ講演、ポスター展示などで、全国の大学における取組が紹介されました。場所:独立行政法人科学技術振興機構東京本部)

●西九州大学にて、2015年1月21日にアバンセ(佐賀県男女共同参画センター)の「学生への意識啓発事業」の一環として、ワークショップならびに講演会『ひとりひとりを大切にできる社会へ』が開催されました。講師は、オフィスピュア・ワークショップデザイナーの高崎恵氏。佐賀大学生も多数参加し、男女共同参画についての基礎的なことを学びました。

●アバンセにて2014年11月29日(土)に創立20周年記念イベントが開催されました。社会学者の古市憲寿氏が登壇されたパネルディスカッションに佐大生も参加しました。また展示スペースでは、「佐賀大学における男女共同参画の取組」を展示しました。



●女子高校生や女子学生の理工系分野での活躍をサポートするために内閣府が「理工チャレンジ」(通称、リコチャレ)を始めています。佐賀大学工学系研究科准教授のウォンターストーン・ナルモン先生も紹介されています。ぜひウェブをご覧ください!

ニュースレター編集委員 : 大串浩一郎(工学系研究科・教授)、小西みも恵(経済学部・准教授)、網谷綾香(文化教育学部・准教授)、斎藤勝彦(シンクトロン光応用研究センター・助教)、黒木幸代(経済学部・係長)、溝口香織(総務部総務課・係長)、宮地歌織(男女共同参画推進室・特任助教)